

お知らせ

INFORMATION

No2021-35

2021年10月

病体生理研究所

新規検査項目受託開始のご案内

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は当研究所をご利用いただきまして誠に有り難うございます。

さてこの度、下記項目の検査受託を開始することとなりました。

何卒、ご利用頂けますようご案内申し上げます。

敬具

記

【新規受託開始について】

◆ 鳥特異的 IgG [38151] …検査実施施設 M

※項目情報裏面参照

《受託開始日》：2021年11月15日（月）受付分より

【新規項目情報】

項目名称	鳥特異的 IgG
コード	38151
検体材料	血清 0.5mL
保 存	絶凍
採取容器	No1 → No7
検査方法	FEIA 法
基準値	判定 : (-) セキセイインコ : 8 未満 mgA/L ハト : 24 未満 mgA/L
報告下限	2 未満 mgA/L
報告上限	200 以上 mgA/L
所要日数	5～11 日
実施料	873 点 (D012 52) *
判断料	144 点 (免疫)
備 考	* : 診察または画像診断などにより鳥関連過敏性肺炎が強く疑われる患者を対象として測定した場合に、区分番号 [D012] 感染症免疫学的検査の「52」抗トリコスポロン・アサヒ抗体の所定点数を準用して算定できます。 なお、本検査が必要と判断した医学的根拠を診療報酬明細書の摘要欄に記載する必要があります。

過敏性肺炎は、環境中の特定の抗原を繰り返し吸入することによって起こるⅢ型およびⅣ型アレルギー反応に基づく間質性肺炎の病型の一つです。その臨床像から急性と慢性に分類され、急性過敏性肺炎は抗原曝露後 4～12 時間で、せき、息切れ、発熱、全身倦怠感などの症状を呈します。

一方、慢性過敏性肺炎は急性症状を認めることは稀であり、数カ月から数年間にわたり、せき、労作時呼吸困難、全身倦怠感、食欲不振、体重減少などを呈します。いずれの場合でも過敏性肺炎の治療には、早期の原因特定と徹底的な抗原回避が重要と考えられています。

過敏性肺炎のなかでも、鳥排泄物（鳥飼育、自宅庭への鳥飛来、鶏糞肥料使用など）や羽毛（羽毛布団、ダウンジャケット、剥製など）に含まれる抗原が原因となり発症するものが鳥関連過敏性肺炎です。

鳥関連過敏性肺炎の診断における原因抗原の特定には、環境誘発試験や抗原吸入誘発試験が最も信頼性の高い診断法とされています。しかし、これらの診断法は症状再現率が必ずしも高くないという問題があり、身体的負担も大きく、特に抗原吸入誘発試験は患者の症状増悪を誘発するリスクがありました。

本検査は、蛍光酵素免疫測定法（FEIA 法）により血液中のセキセイインコおよびハトの IgG 抗体価を測定する低侵襲かつ客観性を有する検査です。鳥関連過敏性肺炎の診断補助検査として 2021 年 6 月に保険適用されました。

参考文献：Shirai T, et al. : Allergology International 70 (2) : 208-214, 2021.

以上